

---

# YUGIOH GX 語られざる歴史

寛太

---

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

## 注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

### 【小説タイトル】

Y U G I O H   G X   語られざる歴史

### 【Nコード】

N O 5 7 3 0

### 【作者名】

寛太

### 【あらすじ】

遊戯十代、後に伝説のデュエリストとして語られる少年。だが十代以外にも伝説として当たり継がれる男がいた。『知られざる歴史』。これはそう語られる事となる、ある一人の少年の物語である。

## 第一話 歴史の始まり（前書き）

初めての投稿です。至らない点が多いでしょうが、どうかよろしくです。

## 第一話 歴史の始まり

デュエルモンスターズ。

それは？&？が開発したカードゲーム。

カードの中には大小様々なカードが描かれ、あるものは百十の王を膝まつかせる獣だったり、またあるものは、奇跡を起こすと謂われた白銀の竜だったりする。

そしてこの世界にはそのようなカード達を集めて戦う召喚師達が存在する。

彼らはカード一枚一枚に己のプライドを、魂をかけ、戦いを挑む。

左手にデュエルディスクという名の盾を持ち、右手にカードという剣を持つその姿は、まさに古代ローマの戦士さながら。

人々は彼らを讃え、こう呼んだ。

『決闘者』と。

- - - - -

- - -  
- - -  
- - -

「フレイムウイングマンで、古代の機械巨人を攻撃！スカイスクレーパーシュート！」

「マ、マンマミーヤ！私の古代の機械巨人が〜！」

緑色主体のHEROが、機械仕掛けの巨人を殴り倒す。

そしてその効果により、機械巨人が崩れ落ち、その破片が機械巨人を召喚した決闘者に降り注がれる。

「ガツチャ！楽しいデュエルだったぜ！」

そしてHEROを出した少年はお得意の決めポーズを相手に向ける。

この男の名、遊戯十代。

HEROを主体としたデッキと天性のディスティニードローを持ち合わせた、後に伝説として語り継がれる男。

カード一枚一枚を信頼し、楽しいデュエルを心がける、まさに少年のようなデュエリストである。まあ、実際少年なのだが。

『ではこれで、試験を終了し——』

「ちよっと待ったあああああ——！！！」

試験監督の一人が終了を宣言しようとした所で、会場の扉が勢いよく開かる。

「受験番号31番、東城ミギリ！わけあって遅刻したんで、今から受けさせてもらっぜ！」

「な、なんだね君は！試験はもう終了したんだ、そんな勝手に許されるとでも——」

「構わないノーネ」

「ク、クロノス教諭……」

「（丁度いい所にカモが来たノーネ。こいつで汚名挽回させてもらっノーネ！）確かに今日は電車遅滞の情報が出てるノーネ。せっかく来たのに、受けられないのは少し可哀想なノーネ」

「し、しかし……」

「ただし、どんな理由であろうと遅刻は遅刻！合格してもそれ相応の身分にするノーネ」

「そこまで言うのでしたら……わかりました。お願いします」ということでいいでスーノ？」

「構わねえ。むしろありがたいくらいだぜ！」

「ふむ、威勢はいいノーネ。でも、がっかりさせない事なノーネ」

「そつちこそな！」

「デュエル！！」

「先行はもうノーネ。ドローなノーネ！」

（んふ、これはいい手札なノーネ）

「私はトロイホースを召喚なノーネ。このモンスターは、地属性モンスターを生贄召喚する時、二体分の生贄になるノーネ。さらに二重召喚発動！このターン、私は二回召喚できるノーネ。そしてトロイホースを生贄に、古代の機械巨人を召喚するノーネ！」

クロノスと呼ばれた教諭の場に、古代技術によって作られた巨人が現れる。

「私はこれでターン終了なノーネ」

（これで勝ち決定なノーネ。さらにさっきの私の慈善行為も含めて・・・んふ、お釣りが来るくらい人気急上昇するノーネ♪）

実はこの教師、先ほどの遊戯十代とのデュエルでもわずかにターンでこの攻撃力3000のモンスターの召喚に成功している。先ほどのデュエルでは難なく倒されたが、また先ほどのようにターンで倒される事もまずあるまい。

「あいつ終わったな」「さすがクロノス教諭」「またターンでの召喚に成功するなんて」等と周りからも口ぐちに言ってるのが聞こえるが、皆一様に同じ事を思っていた。

あいつは絶対に勝てないと。

誰しもそう思う状況で、向かい合う少年は、笑っていた。

「な、何が可笑しいノーネ」

「ククク・・・、やっぱり強エ強エ。さすがはデュエルアカデミアっていったところか。こんなスゲーモンスターをまた一ターンで出しちまうなんて、あんたやっぱすげーよ。」

「ふん、お世辞はいいノーネとつととターンを進めるノーネ」

「ああそうだな、お世辞なんてあんたにや逆に失礼だったな。いくぜ！俺のターン、ドロー！」

少年はデッキからカードを引く。

「だが俺はさらにその上に行く！俺は手札から磁石の戦士 $\alpha$ 、 $\beta$ 、 $\gamma$ を墓地に送る！」

少年がそう宣言すると、場にバラバラとなったパーツが登場する。

「目の前にデッキ―壁があるのなら、俺は迷わず、その壁をぶち破る！超絶合体！！」

そしてそのパーツ達が少年の宣言と共に空高く舞い上がり組み合わさっていく。

まずは体の基盤が出来上がり、次いで左足、右足の順に勢いよくくつつく。そして右手右足が同じに装着される。

最後に頭のパーツが装着される。

「こいつが俺の魂だ！来い、マグネットバルキリオン！！」

呼びかけに応じたかのように、マグネットバルキリオンは少年の元へ躍り出る。

「こ、攻撃力3500！？」

「まだいくぜ、マグネットバルキリオンをリリースして効果を発動！墓地から磁石の戦士達を場に特殊召喚する！」

少年の場に三体の磁石戦士達が躍り出る。

「ふん、所詮落ち溺れなノーネ。そのまま攻撃していれば古代の機械巨人は倒せたノーネ。」

「いや、これでいいのさ」

「な、なにがいいノーネ・・・？」

「これで俺はお前に勝てるからなあ！俺は手札から、死者蘇生を発動！戻ってこい、マグネットバルキリオン！」

少年の場に、再び磁石の究極戦士が現れる。

「な、なんでバルキリオンが蘇生出きるノーネ？！そのモンスターは通常召喚出来ない筈じゃ——」

「ああ、たしかに通常召喚は出来ない。だがこいつは一度条件召喚が成功しまえば、どこからでも特殊召喚はできる！」

「そ、そんな手が・・・」

「一気に行くぜ！マグネットバルキリオンで古代の機械巨人を攻撃！『マグネットセイバー！』」

その呼びかけに応じ、マグネットバルキリオンは空高く跳びあがり、自らの剣で機械巨人を切り裂く。

「マ、マンマミーヤ！またしても私の古代の機械巨人があああー！！」

「これで止めた！『マグネットスペシャル！』」

「ペペロンチーノ！！」

クロノスLP3500↓0

「楽しかったぜお前、それなりに」

この男の名、東城ミギリ。

デュエルアカデミアで、後に『知られざる歴史』として語られることとなるデュエリスト。

そして今日から、この男の物語が始まる。

## PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能<sup>たんのう</sup>してください。

---

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。  
<http://ncode.syosetu.com/n0573o/>

---

YUGIOH GX 語られざる歴史

2010年10月9日04時32分発行